

I、螺旋ゼロ場を形成するあらゆる改質機能水は放射能を原子転換で分解する機能を持つ

—創生水（創生ワールド㈱製品）もそのひとつ—

哲科学・技術研究/TAKAO 高尾征治

最近、創生水で知られる創生ワールド㈱ (<http://www.oseiworld.co.jp/>) の方から2度、3度電話で問い合わせがあった。

「創生水で放射能が分解できることが確かめられた。先生にその資料を送付し見解をお伺いしたい」とのことだった。

そこで関連する情報をインターネットで検索してみた。以下がその一つだ。

「放射性物質を消す“奇跡の水”「創生水」 飯舘村「創生水を復興の旗印に

1 依頼 728(関西地方) : 2011/05/21(土) 12:57:21.22

ID:8Ak47U3o0 ?2BP 福島第一原発から北西約40キロメートルに位置する福島県飯舘村。この村は積算放射線量が高かったため、計画的避難地域に指定されている。そんな飯舘村の住民が、今、かすかな希望としている水がある。それは放射性物質を消し去るという「創生水」。飯舘村農業委員会の会長を務める菅野宗夫氏がこう説明する。

「この水で放射線に汚染された野菜を洗えば元通りになり、田んぼや川、牧草、牛の乳も、この水に浸せば放射性物質が完全に消え去る可能性があるんです。私たち地区住民200人は、創生水を復興の旗印にしていきたいと思います」



この「創生水」とは、長野県上田市に本社を置く科学機器メーカー「創生ワールド」が開発した水。現在、同社は飯舘村の住民に「創生水」と、1台約200万円という高価な生成器を無償提供している。「創生水」の開発に関わった同社社長の深井利春氏は、「様々な病気を引き起こす活性酵素を吸着して除去する作用を持ち、健康によいとされる還元水の種類」と説明する。 <http://wpb.shueisha.co.jp/2011/05/20/4747/>

「創生水は油と混ざり合う性質があります。“水と油”という慣用語があるように、これは水道水など一般的な水ではありません。分子が小さく、界面活性力を持つ創生水だからこそ実現できることでもあります」（深井氏）

界面活性力とは、性質の違うふたつ以上の物質の境界面を活性化すること、つまり「創生水」はこれを活性化（乳化）する機能があるのだとか。

「この機能により、シャンプーや手洗いはもちろん、油にまみれた食器を洗うのにも洗剤を必要としません。使ったことのない人には信じがたいでしょうが、現に、だけを使用し、シャ

ンプーや洗剤を使わない美容室や飲食店、クリーニング店は創生水東京都内など全国に1千店近くあります」(深井氏)

そのうちの1店、東京・銀座にある焼き肉店「びよんびよん舎 GINZA UNA」では、実際に洗い場で洗剤を一切使わず油まみれの皿を洗浄している。活性酵素、還元水、界面活性力など、難しい言葉が並ぶが、一流企業の検査機関でも、その効能が証明されたという。“奇跡の水”、はたしてその正体は？ <http://wpb.shueisha.co.jp/2011/05/20/4747/>」

この記事は、私が2011年4月27日、「臨時ししや科も便 11-04-27」で渡部冠さん開発のニュートリノ零場転換浄水器の放射能分解効果に関連してお知らせした「**各種改質機能化装置・器具も放射性物質を非放射性物質に原子転換する能力がある！！**」との予見を見事に裏付ける結果となっている。それを以下で紹介したい。

「臨時ししや科も便 11-04-27」渡部冠さんからの現地報告：ニュートリノ零場転換浄水で放射能汚染土壌の数値が1/6-1/10に激減！！

各位

新野恵さん(株サクセスアイ)から竹炭が原発現場に入ることになったとの朗報に続き、渡部冠さん(NPO法人 ニュートリノ 理事長)から自ら開発したニュートリノ零場転換浄水器で放射能汚染土壌の数値が1/6~1/10に激減したとの朗報が届いたのでお知らせしておきます。

1. **各種改質機能化装置・器具も放射性物質を非放射性物質に原子転換する能力がある！！**→九州大学在職時以来ご縁のあった亜臨界水反応装置(G8 インターナショナル(株)、vG7(株)ウエルネス)、ナノバブル「DBON」(株)多自然テクノワークス)、ニュートリノ零場転換浄水器(NPO法人ニュートリノ)、Neogiaやテラファイト(ネオガイアジャパン(株)あるいはディレカ光電子付与装置(株)TAMURA)など各種改質機能化装置・器具も放射能汚染の分解軽減に効果があります。というのは、これらの装置は螺旋ゼロ場を形成し情報量子エネルギー(光子、ニュートリノ、電子)を生滅させppmオーダーで原子転換を起こせるからです。→高尾征治著『宇宙生命三都物語』、pp.1-414、Ecoクリエイティブ(2009)

II. 渡部冠さん(NPO法人ニュートリノ 理事長)グループの活動

以上のことを裏付ける活動報告が渡部冠さんから入った。

2011年4月26日(火)午前8時半、渡部冠さん(NPO法人ニュートリノ 理事長)から電話が入った。現在、新幹線開通になって仙台に来ている。ニュートリノ零場転換浄水器を活用すべく自民党の某有力代議士の紹介という了承を得て活動中。また、螺旋ゼロ場を形成する絵画「原始光熱球体(=大親さま)」を二千枚持参して頒布中。

同日、20時、渡部冠さんから電話があり、放射能汚染土壌にニュートリノ零場転換浄水を散布したところ、放射能数値が1/6から1/10に激減したとの朗報が入った。

〒811-4142

福岡県宗像市泉が丘 2-36-3

哲科学・技術研究/TAKAO

高尾征治

TEL.&FAX.094-35-5155

携帯 090-9602-3012

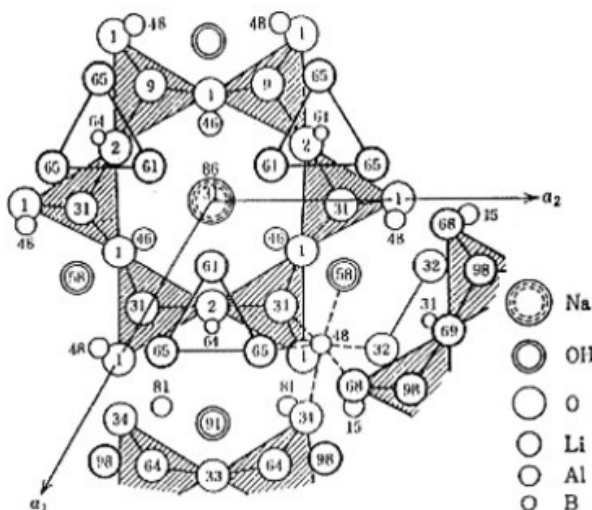
E-mail: d2y5mt@kve.biglobe.ne.jp

URL: <http://www1.odn.ne.jp/shishakamo/>

この「臨時ししや科も便 11-04-26」では、研究上、これまで直接のご縁が直接なかったので「創生水」については触れていないが、勿論「創生水」という改質機能水も放射能分解能を有することは論を待たない。なぜか？その秘密は昨年送付頂いた多くの資料のひとつ、深井利春著「創生水が開発された訳—資産1億円を捨て、水を研究した開発者の想い—」の中に潜んでいた。それを読むと、創生水を製造する浄水器には以下の材料が使われていることが伺える。

- 1) 電気石の異名を持つトルマリン（+アルミニウム）という自然石を使用していること。
- 2) 酸化還元電位を激減させる（例えば+652mVの水道水が-729mVの創生水になる）黒曜石を使用していること。

まず、1)について言えば、トルマリンのナノ結晶構造は、図1に示すように二次元でみると正四面体が六角形状に配列した、二次元でみると六芒星となっている。



SiO4四面体を斜線で示し、Siを省略した。金属イオンのみの高さの数を示した。（Ito and Sadanaga,1951 及び Buerger,Burnham and Peacoa,1962 に基づく）

図1 トルマリンの結晶構造 (<http://www.torumakouza.com/kouza/index06.html>)

2)の黒曜石について言えば、火山爆発でマグマが急冷した非晶質のガラス状の岩石で、トルマリンとは隣り合わせの関係にある。

高尾^{1,2,3,4)}の量子水学説、とりわけニュートリノ実体論に言う、ニュートリノゼロ点生滅理論^{1,2,3,4,6,7)}、ニュートリノ形態波動共鳴説^{10,11)}によれば、図1に示すナノ六角形や五角形に波動共鳴してその中心のゼロ点で量子エネルギー（光子、ニュートリノ、電子）が生滅すると見ている。

また、パンフには「トルマリンの入った水槽に一円玉をたまたま落としたのをきっかけに電極の針が思いっきり振れたのでした」（p.26）。このアルミニウム効果を偶然発見した事の意義は大きい。この種の六角構造を持ったものにアルミを組み合わせると自然に起きる原子転換が促されることが高尾ら^{8,9)}により消石灰とアルミニウム粉の自然放置実験で確かめられているからだ。

このように螺旋ゼロ場で生滅する情報量子エネルギーの中で、とりわけ、ニュートリノの作用で水の改質機能化が促される。それは以下のような化学反応式に従って起きる。

1. ニュートリノと水分子の相互作用

このような岩石を素材とする創生水製造装置に水道水を通すと、六芒星型ナノ結晶構造の中心のゼロ点からニュートリノが対発生する。



対発生したニュートリノは水分子と次式のように反応する。

正ニュートリノ（ ν ）が水分子（ H_2O ）の水素原子（ ${}_1H$ ）に衝突すると式(2)が成り立つ。



水分子は水素原子とOHに転換するが、ニュートリノは変化しない。

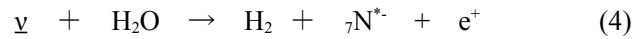
正ニュートリノが水分子の酸素原子（ ${}_8O$ ）に衝突すると、式(3)が成り立つ。



すなわち、従来物理学^{5,6)}はニュートリノ・核子相互作用式で、正ニュートリノは既存原子の原子核内の中性子を陽子に変えると見ているからだ。

ここで、 H_2 は水素ガス、 ${}_8F^{*+}$ は電子欠損のフッ素原子ラジカル、 e^- はゼロ点から発生する電子。

反ニュートリノ（ $\bar{\nu}$ ）が水分子の酸素原子と衝突すると、式(4)が成り立つ。



すなわち、従来物理学^{5,6)}はニュートリノ・核子相互作用式で、正ニュートリノは既存原子の原子核内の陽子を中性子に変えと見ているからだ。

ここで、 ${}_7\text{N}^*$ は電子過剰の窒素原子ラジカル、 e^+ はゼロ点から発生する陽電子。
また、反ニュートリノが水分子の水素原子に衝突すると、式(5)が成り立つ。

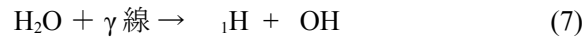


ここで、 OH は水酸基、 ${}_0\text{n}^*$ は電子過剰の中性子ラジカル、 e^+ は陽電子。

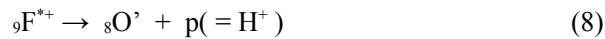
式(3)の電子と式(5)の陽電子が衝突、あるいは式(5)の過程で発生陽電子が原子核外過剰電子と衝突すると、式(6)のように γ 線が発生する。



発生した γ 線は、水分子を式(7)のように分解する。



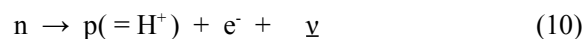
式(3)の電子欠損のフッ素原子ラジカルは不安定なので、式(8)のように陽子 (p) を放出して酸素同位体 (${}_8\text{O}'$) になる。



式(5)の電子過剰の中性子ラジカルは不安定なので式(9)のように中性子と電子になる。



中性子は10分前後の半減期で式(10)のように陽子、電子、反ニュートリノに崩壊する。



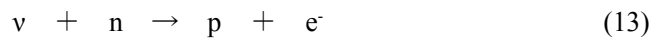
生成した反ニュートリノが再び式(5)のように水の水素原子と衝突するので、式(5)、式(9)、式(10)は反永続的なりサイクル反応を形成する。

式(10)で、陽子が電子を捕獲すれば、式(11)のように水素原子が発生する。



創生水の酸化還元電位が極めて低く、活性水素濃度がどの自然水や改質機能水より著しく高いのは式(11)の反応が効率よく進むからに違いない。

ところで、式(9)は、従来理論では中性子のβ崩壊と解されている。しかし、正しくは自由中性子内部のゼロ点から式(1)のように対発生する正、反ニュートリノのうち、正ニュートリノが中性子と作用した結果に他ならない。すなわち、



式(12)、式(13)を辺々足し合わせると、式(14)が成り立つ。すなわち、β崩壊式となる。

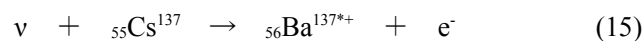


以上のような対発生ニュートリノと水分子の構成元素との相互作用から、量子・原子・分子連続転換が進み、水が改質機能化されることになる。

2. 放射性物質の分解機構

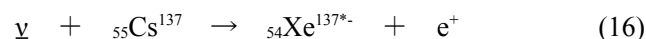
もし、水中に放射性物質、セシウム 137(${}_{55}\text{Cs}^{137}$)が含まれていれば、螺旋ゼロ場から対発生する正、反ニュートリノは以下のように分解する。

まず正ニュートリノ(ν)がセシウム 137 に衝突すると、式(15)が成り立つ。



すなわち、セシウム 137 は電子欠損のバリウム原子ラジカルに転換され、ゼロ点から電子(e^-)が発生する。

つぎに、反ニュートリノ($\bar{\nu}$)がセシウム 137 に衝突すると、式(16)が成り立つ。

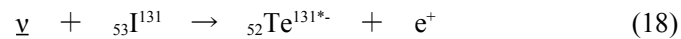
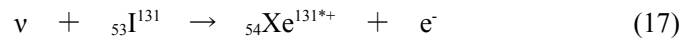


すなわち、セシウム 137 は電子過剰のキセノン原子ラジカル(${}_{54}\text{Xe}^{137*-}$)に転換され、ゼロ点から陽電子が発生する。

1 節で紹介したニュートリノと水分子の相互作用系では、式(10)のように反ニュートリノ

が半永続的に生成するので、式(17)に示す反応が支配的に起きる。その結果、放射性元素、セシウム 137 は安全な希ガスであるマイナスのキセノン原子ラジカルに転換される。

同様に、半減期が約 8 日の沃素 $^{131}_{53}\text{I}$ の場合は、以下のように分解される。



すなわち、放射性元素、沃素 131 は、安全な電子欠損のキセノン原子ラジカル(${}_{54}\text{Xe}^{131*+}$)や安全な電子過剰のテルル原子ラジカル (${}_{52}\text{Te}^{131*-}$) に分解されることになる。

【引用文献】

- 1) 高尾征治：『宇宙生命三都物語』、pp.1-414、Eco クリエイティブ(2009)
- 2) 高尾征治：『量子水学説』、pp.1-449、CMF 国際大学(2004)
- 3) 高尾征治：『量子水学説概論』、pp.1-20、ししや科も会(2997)
- 4) 高尾征治：『ゼロエナジー 5 巻選集 第 2 巻（物理学編） 標準理論に挑む—ニュートリノゼロ点生滅理論で現代物理学が抱える矛盾が数珠繋ぎに解ける—』、pp.1-120、ししや科も研究所(2008)
- 5) 日本物理学会編：『ニュートリノと重力波』、p.179-202、裳華堂(1997)
- 6) 竹内薫：『ペンローズのねじれた四次元』、講談社(1999)
- 7) ペンローズ：『ペンローズの量子脳理論』、竹内薫・茂木健一郎[訳・解説]、徳間書店(1997)
- 8) Komaki H. and M. Takao et al.: “Effect of Functional Waters on the Growth of Lactic Acid Bacteria and Yeast and Its Mechanism,” Conference Proceedings of the 10th APCChE Congress, 3P-01-097, Kitakyushu, Japan (2004)
- 9) Takao M. and H. Komaki et al.: “Atomic Conversion in the Long-Term Experiment of Calcium Hydroxide and Aluminum in the Atmosphere,” Conference Proceedings of the 10th APCChE Congress, 4D-07, Kitakyushu, Japan (2004)
- 10) 高尾征治・川添淳一・高倉剛・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久恒・和仁宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-1 ニュートリノ形態波動共鳴説によるフラーレン機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿集、p.16(2006)
- 11) 高尾征治・川添淳一・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久恒・和仁宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-2 ニュートリノ形態波動共鳴説によるカーボンナノチューブ機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿集、p.17(2006)

